

2023年1月15 午前礼拝  
「教会はキリストのからだ」 説教者：堺希望伝道師

【引用聖句】

**エペソ 1:20~23**

20. 神は、その全能の力をキリストのうちに働かせて、キリストを死者の中からよみがえらせ、天上においてご自分の右の座に着かせて、
21. すべての支配、権威、権力、主権の上に、また、今の世ばかりでなく、次に来る世においてもとえられる、すべての名の上に高く置かれました。
22. また、神は、いっさいのものをキリストの足の下に従わせ、いっさいのものの上に立つかしらであるキリストを、教会にお与えになりました。
23. 教会はキリストのからだであり、いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです。

【説教要約】

本日は、エペソの1章20節から23節までを見て参ります。このエペソ書は、パウロの書いた、教会について書かれている書簡です。一人ひとりのクリスチャンが、世界の誕生する前から神様に知られていたことや、やがてイエス様が完全に世界を支配してくださる永遠の時までの、教会に対するご計画が記されています。

この1章の20節からは、父なる神様がイエス様を通してどのように教会を建ててくださったのかが書いてあります。

**①復活による勝利の希望**

エペソ 1:20a, 神は、その全能の力をキリストのうちに働かせて、キリストを死者の中からよみがえらせ、天上においてご自分の右の座に着かせて、

23節にも書いてある通り、教会とは、「キリストのからだ」とよく言われます。事実、聖書では教会をそのように表現している箇所がたくさんあります。

世間ではよく誤解されがちですが、教会という言葉は建物を指す名前ではありません。聖書で言う教会とは、イエス・キリストを信じて救われた人々の集まり、特に地域に根差して集まる人々をそのように呼びます。だから、例えば「葛西聖書バプテスト教会」と言えばこの建物のことを指すのではなく、この教会の集まりのことを言うのです。

ですから、例えば今日この建物が使えなくなって小さな会議室で礼拝をしたとします。またはどなたかの家を借りて礼拝したとします。それでも、そこに集まって神を礼拝するとき、その集まりは「葛西聖書バプテスト教会」なのです。教会とは、場所の名前ではなく、信仰者の集いを指すのです。

ですから、「教会」と名の付くとき、または「教会の活動」と言うとき、教会はキリストのからだですから、すべてはキリストに結びついています。この礼拝もそうですね。イエス様を見上げてささげられるものだから、教会の礼拝なのです。他にも賛美、奉仕、祈り、証、それらはイエス様にささげられているので喜ばれるのです。逆に、もしキリストを無視している教会や教会の活動があれば、それは教会ではないのです。

では教会は、どのようにして始まるのでしょうか。唯一イエス・キリストによる「救い」によって始まります。これは私たち人間と神様との関係の始まりです。私たちはイエス・キリストの死と復活の福音を聞くまで、自分が神に敵対して生きていることや神の目から見て実は死んでいる存在だなどということはまるで知りませんでした。2章の1-5節にはそれまでの私たちについてこう書いています。

エペソ 2:1, あなたがたは自分の罪過と罪との中に死んでいた者であって、  
エペソ 2:2, そのころは、それらの罪の中にあってこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者として今も不従順の子らの中に働いている霊に従って、歩んでいました。  
エペソ 2:3, 私たちもみな、かつては不従順の子らの中にあって、自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを行い、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。  
エペソ 2:4, しかし、あわれみ豊かな神は、私たちを愛してくださったその大きな愛のゆえに、  
エペソ 2:5, 罪過の中に死んでいたこの私たちをキリストとともに生かし、——あなたがたが救われたのは、ただ恵みによるのです——

私たちは自覚しているにせよ、していないにせよ、自分の罪のために滅びるべき存在でした。悪魔に従い、神に敵対して歩んでいたのです。誰しも、自分は悪いことをすることがあるとは自覚していても、自分は悪者であるとは思えないものではないのでしょうか。ですが神様ははっきりと、「あなたは罪人であり、神の敵だ」と言われました。

罪を犯して神に敵対して生きる者には、永遠に苦しむ地獄が用意されています。私たちが、本来行くのにふさわしい場所でした。しかし、神様はこの私たち、敵のために、罪を知らない御子イエス様を差し出して十字架にかけてくださいました。

1ペテロ 2:22, キリストは罪を犯したことがなく、その口に何の偽りも見いだされませんでした。  
1ペテロ 2:23, ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、おどすことをせず、正しくさばかれる方にお任せになりました。  
1ペテロ 2:24, そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです。

イエス様が罪を負ってくださったので、私たちは神の怒りから救われたのです。そしてイエス様はよみがえられたことで、死と悪魔に勝たれました。だから、このよみがえられた方を自分自身の救い主と信じるなら、その時からイエス様と新しい人生が始まります。

集まりに来ている人には必ず共通点があります。学校、会社、趣味、その集まりにいることを知るだけで立場を知ることができます。では教会に集まっている人々の共通点は何でしょうか。ここには、年齢も背景も全く違うあらゆる人が集まります。私たちの共通点はただ一つ、イエス・キリストを信じて救われていると言う事です。これが教会の絶対に欠けてはならない要素であり、私たちの最も強烈な立場なのです。

## ②すべてに打ち勝つ希望

エペソ 1:20b, 天上においてご自分の右の座に着かせて、  
エペソ 1:21, すべての支配、権威、権力、主権の上に、また、今の世ばかりでなく、次に来る世においてもとなえられる、すべての名の上に高く置かれました。

よみがえられたキリストを、神様は「すべての支配、権威、権力、主権の上に、また、今の世だけでなく、次に来る世においてもとなえられる、すべての名の上に高く置かれ」たとあります。

これは、どんな支配力や支配者よりも上の地位にいるということです。私たちは、救われるまで悪魔の奴隷であったと聖書は語ります。悪魔は、神様にいつも逆らう存在です。人を騙し、自分のしたいことや欲求のために生きるように人を仕向けます。アダムとエバの時から変わりません。そして生まれながらの人間はみんな、その悪魔の手の上で生きています。

クリスチャンはその手のひらの上にもういないので、悪魔はクリスチャンに対しては、神様との関係を壊そうとしてきます。神様ではなく自分に心向けさせたいからです。このようにして、この世界のあらゆる悪は、この悪魔と人間の罪による結果なのです。

ガラテヤ 2:19, 肉の行いは明白であって、次のようなものです。不品行、汚れ、好色、  
ガラテヤ 2:20, 偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、憤り、党派心、分裂、分派、  
ガラテヤ 2:21, ねたみ、酩酊、遊興、そういった類のものです。前にもあらかじめ言ったように、私は今もあなたがたにあらかじめ言うておきます。こんなことをしている者たちが神の国を相続することはありません。

殺人、詐欺、暴力、敵対心、戦争。ありとあらゆる方法や手段を使って、悪魔は人の心を恐怖に陥れ、自分の奴隷にしようとしています。

しかし、真に幸いなことを聖書は教えてくれています。それは、イエス・キリストがあらゆる名の上に置かれているということです。なぜなら、イエス様こそはよみがえったことで「罪を背負って死に打ち勝った」者であるからです。どんな罪も、人間の最強の敵である死も彼に勝つことはできません。

それは、イエス様がありとあらゆることの主権者、王であるということです。イエス様の許可なしに、すべてのことは起こりません。もちろん暴力も、騙しも、敵も、病も。そして悪魔も勝手に動くことはできません。イエス様は十字架につけられる夜に、はっきりとこう言われました。

ヨハネ 14:30, わたしは、もう、あなたがたに多くは話すまい。この世を支配する者が来るからです。彼はわたしに対して何もすることはできません。

### ③教会に与えられた希望

エペソ 1:22, また、神は、いっさいのものをキリストの足の下に従わせ、いっさいのものの上に立つかしらであるキリストを、教会にお与えになりました。

エペソ 1:23, 教会はキリストのからだであり、いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです。

イエス様こそは、この世界を造られ、今も支配しておられるお方です。教会はそのキリストの救いを土台に建てられ、キリストにいつも繋がっている存在なのです。では、教会の権威は誰が持っているのでしょうか。牧師でしょうか。年長の教会員ですか。聖書をたくさん知っている人ですか。いいえ、「教会はキリストのからだ」、キリストは教会のかしら=頭です。

キリストが一番上です。キリストがこの教会の権威を持っておられます。このキリストはどのような方でしょうか。死に打ち勝たれた方です。罪に勝利された方です。悪魔に勝った方です。この世界のどんな支配力よりも上におられる方です。

私たちが主のお名前の下で礼拝を捧げるとき、そこにはこの主がおられます。私たちが主のお名前の下で祈りをする時、そこにはこの主がおられます。私たちが主に奉仕をささげるとき、そこでこの主が受け取ってくださいます。救いに導かれ、主を礼拝できる身である時点で、それはこの世で決して得る事の出来ない、素晴らしい身分なのです。

覚えてください。私たちの主イエス・キリストよりも力を持つ者はいません。キリストを支配できる存在はいません。すべての支配はキリストがされています。すべての力はこのキリストが持っておられます。たとえ目に見える世界があらゆる悪と不幸で波に揺れるように不安定であったとしても、私たちキリストに連なる者はしっかりとこの方に留まって、動揺することなく信頼しましょう。

そして、私たちはこのかしらに繋がっているからだです。私たちはそれぞれ、自分の肉体的手や足や見えない内臓のような部分部分のパーツであると、第一コリントでは言われています。自分のからだに要らないからといって捨てたり切ったりすることはないと思います。

すべての部分は繋がっていて、どれ一つ欠けることなく集まってこそそのからだです。からだは頭から出る信号によって動きます。頭で考えたことを体が実行するように、私たち教会全体に求められていることは、主イエスのみこころを全体で行なっていく事なのです。

神様には教会に対するご計画があります。教会はこのように、キリストの救いによって建てられますが、皆人間ですから多くの失敗や欠点、理解し合えない事があります。しかし主はすべて必要なことを満たし、与えて下さいます。違いだらけだったものが、イエス様を中心に一つになるためです。

エペソ 2:14, キリストこそ私たちの平和であり、二つのものを一つにし、隔ての壁を打ちこわし、

エペソ 2:15, ご自分の肉において、敵意を廃棄された方です。敵意とは、さまざまの規定から成り立っている戒めの律法なのです。このことは、二つのものをご自身において新しいひとりの人に造り上げて、平和を実現するためであり、

エペソ 2:16, また、両者を一つのからだとして、十字架によって神と和解させるためなのです。敵意は十字架によって葬り去られました。

そして将来、私たちは何一つ痛んだものがない、不足のない、完全な者としてイエス様の前に立ちます。

エペソ 5:26, キリストがそうされたのは、みことばにより、水の洗いをもって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、

エペソ 5:27, ご自身で、しみや、しわや、そのようなものの何一つない、聖く傷のないものとなった栄光の教会を、ご自分の前に立たせるためです。

私たちの未来はみことばによって約束されています。私たちはこの未来を目ざして歩んでいるのです。ここで書かれていることは、私たちの関係が、父なる神様とイエス様の関係のように、もしくはイエス様が私たちにくださったような愛の関係へ変わるといことです。そのご計画のために主は、必要な一切のものを私たちに与えて下さいます。

歴史上、すべての人が色々な方法で安定を得ようとしてきました。自分の考えや正義で平和や理想の世界を造ろうとして来ました。しかし、聖書は、イエス・キリスト抜きで本当の正義も平和も理想もあり得ないと言います。

なぜなら、キリストが救い主でないなら、その人はまだ神の敵として生きているからです。イエス様によって神と和解することがないなら、その人は死後に永遠の地獄に行くと言います。それは神に背いて歩んでいるからです。

しかし、神様が与えて下さったイエス・キリストが、自分のために犠牲になり、今よみがえって生きておられることを信じるなら、その瞬間神の敵ではなく、神のこどもとなります。そうして、神の家族となるのです。